

「白山開山の祖・泰澄大師の法灯を守る」石徹白の大師堂を訪ねて

今年の白山開山1300年祭の関連特集として、毎号、白山文化に関する市内の見学施設をご紹介します。今回の特集で取り上げるのは、白鳥町石徹白の大師堂です。普段は公開されていませんが、事前に予約をすれば拝観することができます。ここでは大師堂の見どころをご紹介します。

泰澄大師を祀る大師堂

大師堂は、白鳥町石徹白の在所地区にある寺院です。泰澄大師霊場と刻まれた石碑と、その脇にたたずむ泰澄大師の石像が参拝者を迎えてくれます。そこから歩いて、木々の中を長い参詣道の苔むした石段を上っていくと、やがて境内の観音堂や鐘楼などが見えてきます。大師堂は白山開山の祖・泰澄大師を本尊として祀っています。明治4年（1871）に、神仏分離に際してここにお堂が建てられ、白山信仰にゆかりの仏像や仏具が祀られたのが始まりです。そして今も大師講のみならず、泰澄大師の命日の3月18日や、泰澄大師が白山を開山したとされる旧暦6月18日（7月18日）の白山

開きなどには、大師堂で法要が執り行われています。この大師堂には、本尊の泰澄大師像をはじめ、明治時代に白山中居神社を離れた仏像や仏具のほか、白山の参詣道にあった下山仏が祀られています。

白山神を崇拝した奥州藤原氏

白山神は歴代朝廷や武士、豪族などから篤く信仰されました。平安時代の末期（12世紀）の奥州（今の東北地方）の豪族・藤原秀衡も熱心な白山信者でした。秀衡は、源頼朝の勢力から逃れてきた源義経や弁慶をかくまったことでも知られています。とところで大師堂には、美術工芸としても優れた銅造虚空蔵菩薩坐像が安置されています。秀衡がこの仏像を寄進した

と伝えていきます。これを裏付けるように、石徹白には上村十二人衆という奥州武士団の伝説が今も語り継がれ、上杉一族にも奥州からの来歴を書き記した系図が伝わります。秀衡の命で仏像を奉持した人々は、そのまま石徹白の地へ住み着き、800年が過ぎた今も子孫のみなさんがこの仏像を大切に守っています。

織田信長が奉納した鰐口

戦国時代になると、白山信仰は武将たちからも手厚い保護を受けました。大師堂には5口の鰐口が伝わっていますが、その中の一つに、織田信長が奉納した38.5cmの大きな鰐口があります。鰐口は寺社の軒下に吊るす円形の銅製品で、祈願するため

に布の緒で打ち鳴らす札拝具です。表面に文字が彫り込まれており、元龜2年（1571）に信長が白山別山へ寄進した鰐口だとわかります。信長といえは、延暦寺や一向一揆などの宗教勢力を弾圧したことから、無神論者のイメージを持つ人が多いと思います。しかし、この鰐口からは、神仏を崇拝する違った信長の一面がうかがえます。織田氏の先祖は白山からそれほど遠くない越前国丹生郡織田（今の福井県越前町）の出身で、白山神への信仰が代々篤かったようです。

このほかにも大師堂では、白山信仰にゆかりのたくさんのお仏像に出会えます。この白山開山1300年の機会に、ぜひ悠久の歴史を感じてみてください。



▲泰澄大師の石像が参詣者を出迎え



▲大師堂御本尊の泰澄大師像



▲藤原秀衡の奉納と伝わる虚空蔵菩薩坐像



▲織田信長の鰐口



▲宝物蔵の仏像群の一部



「大師堂」拝観のご案内

通常の公開はしていませんので、拝観希望の方は、下記まで事前にご予約ください。なお、冬期は見学できません。

場所 白鳥町石徹白祠山4
 駐車場 無料（参詣道入口に数台駐車可）
 事前予約 大師講代表者 上村修一さん ☎86-3143
 お問い合わせ 教育委員会社会教育課 ☎67-1128